

【球磨村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本村では、令和6年4月に策定した球磨村教育振興基本計画の中で、「確かな学力の育成」として効果的なICTの活用を通じた学習意欲の喚起や情報化に対応した教育の充実を掲げている。これを目指すため、今後のAIなどの技術革新が進む新たな時代に対応した学校教育を実施していく必要がある。

本村教育委員会では、タブレット端末や電子黒板等のICT機器を効果的かつ積極的に活用した分かりやすい授業づくりを推進し、情報モラルに関する指導も図りつつ、児童生徒が様々な問題に積極的に対応し、解決していく生きる力の育成に努めている。

令和6年度に球磨村立球磨清流学園で実施した「プログラミング教育」については、タブレット端末を活用したプログラミング的思考を培うとともに、タブレット端末の操作方法についても学習を深めた。令和7年度は、球磨清流学園前期課程の児童に対して、夏季休業中に学年に応じた難易度のプログラミング学習を実施した。

今後も「確かな学力の育成」を目的として、学校ICT環境の整備を行うとともに、ICT支援員と連携しながら、ICTの効果的な活用を推進していく。

2. GIGA第1期の総括

本村では、第1期の「GIGAスクール構想の実現」に向けた児童生徒1人1台端末の整備事業（以下、第1期GIGA整備事業）においては、令和2年度でタブレット端末を購入するとともに、学校内の通信ネットワーク環境を構築し、令和3年度から児童生徒が1人1台の端末を活用している。現在では、授業のみならず、家庭学習においてもタブレット端末を用いた学習を行っている。

第1期GIGA整備事業時に導入したタブレット端末は、故障が少ないものの、重量が重いとの意見もあるため、端末更新にあっては、実際に使用している教職員や児童生徒の意見も聞きながら進めていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

球磨村では、GIGAスクール構想第2期において、端末を更新し、児童生徒1人1台の端末環境を引き続き維持する。その効果的な利用促進に向けて、以下の取り組みを進めていく。

(1) 1人1台端末の積極的活用について

本村では、「1人1台端末の積極的活用」の取組として、ICT支援員による機器の操作や校務支援システムの活用アドバイス等を行い、教職員のICTを活用した指導力の向上を図っている。一方で、導入している機能の全てを活用できている状況になく、活用頻度についても教職員の個人差があるため、それぞれに応じた機能の有効的な活用を進めていく。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実について

主体的な深い学びの実現に向けて、学習支援ソフトやデジタル教科書等のソフトウェアの整備を行ってきた。特に学習支援ソフトは個別最適な学習をするための有効なソフトであり、児童生徒一人一人の学習状況に応じた個別最適な学びを可能としている。

今後においても、児童生徒一人一人の学習状況に応じたA Iドリルの活用や、他者と協働しながら課題解決に取り組むために必要な資質・能力を育成していく。

(3) 学びの保障について

本村では、病気療養により登校ができない児童生徒に対して、症状に配慮しつつ、教室で行っている授業をオンライン配信し、同じように授業を受けることで学びの保障を図ったケースがあるが、オンライン配信の実施は教員により差があるため、日常的に使用が可能となるよう、ICT支援員とも連携しながら活用を図りたい。

また、期間限定ではあるものの、トライアル版のWEB学習システムを活用し、学校へ来ることができない児童生徒が家庭でも学習できる環境づくりを行った。これについては、教職員や生徒の意見を基に効果を検証し、正式な導入を検討する。

今後も感染症や自然災害等、様々な状況で、児童生徒が学びを進めることのできない環境下に置かれる可能性もあるため、これらのデジタルツールを活用し、引き続き切れ目のない学びを保障していく。